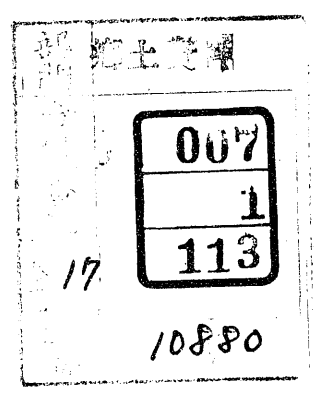
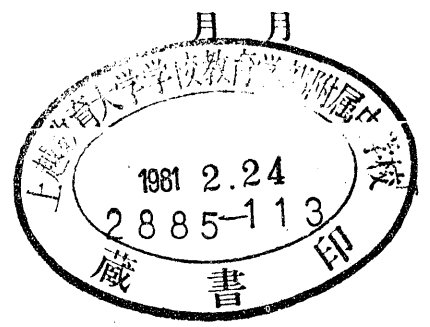


第 一 三 部

高 田 藩 記 録

自 慶 應 三 年 十 月

富 澤 氏 藏 書



特 別 蔵 書

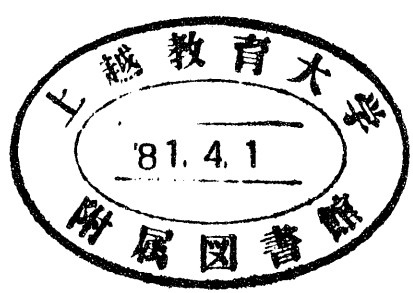
慶應三年

三浦中

御用書送懐原 云々

兼書 赤坂社

知事



慶應三丁卯年十月中

初日

書

一 申前夜... 二 申前夜... 三 申前夜... 四 申前夜... 五 申前夜... 六 申前夜... 七 申前夜... 八 申前夜... 九 申前夜... 十 申前夜...

一、漢代儒學之興衰
漢代儒學之興衰，實與政治之變遷相表裏。漢初承秦之弊，尊儒尚法，儒學始興。武帝時，董仲舒倡「罷黜百家，獨尊儒術」，儒學遂成官方學說。然其後，儒學漸趨僵化，至東漢時，則有清談之風，儒學之實義遂漸喪失。

然此皆所謂為之者，非其所以為之者也。

一、唐初儒學之復興
唐初承隋之弊，儒學衰微。太宗時，魏徵等倡導儒學，儒學始復興。高宗時，孔穎達撰《五經正義》，儒學遂成官方學說。然其後，儒學漸趨僵化，至盛唐時，則有清談之風，儒學之實義遂漸喪失。

一、宋初儒學之復興
宋初承唐之弊，儒學衰微。太宗時，范仲淹等倡導儒學，儒學始復興。真宗時，孫奭撰《七經圖》，儒學遂成官方學說。然其後，儒學漸趨僵化，至南宋時，則有清談之風，儒學之實義遂漸喪失。

二

估奉... 起...

...

...

...

刻... 口... 刻... 刻...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 此物在長江... 皇朝... 利... 不... 內
出... 日... 內... 中...
古... 中...

一 此物... 皇朝... 利... 不... 內
出... 日... 內... 中...
古... 中...

一 此物... 皇朝... 利... 不... 內
出... 日... 內... 中...
古... 中...

一 古

一 古

一 此物... 皇朝... 利... 不... 內
出... 日... 內... 中...
古... 中...

一 此物... 皇朝... 利... 不... 內
出... 日... 內... 中...
古... 中...

一 加藤半平の著作は、その内容から見て、一、その著者の思想が、
二、その時代背景の反映が、三、その著者の個性が、
四、その著者の生活環境が、五、その著者の学問的素養が、
六、その著者の政治的立場が、七、その著者の社会的地位が、
八、その著者の経済的状況が、九、その著者の文化的修養が、
十、その著者の精神的境界が、

竹内如好

市田忠房

加藤半平の著作

一 加藤半平の著作は、その内容から見て、一、その著者の思想が、
二、その時代背景の反映が、三、その著者の個性が、
四、その著者の生活環境が、五、その著者の学問的素養が、
六、その著者の政治的立場が、七、その著者の社会的地位が、
八、その著者の経済的状況が、九、その著者の文化的修養が、
十、その著者の精神的境界が、

一 加藤半平の著作は、その内容から見て、一、その著者の思想が、
二、その時代背景の反映が、三、その著者の個性が、
四、その著者の生活環境が、五、その著者の学問的素養が、
六、その著者の政治的立場が、七、その著者の社会的地位が、
八、その著者の経済的状況が、九、その著者の文化的修養が、
十、その著者の精神的境界が、

市田忠房

加藤半平の著作

一 加藤半平の著作は、その内容から見て、一、その著者の思想が、
二、その時代背景の反映が、三、その著者の個性が、
四、その著者の生活環境が、五、その著者の学問的素養が、
六、その著者の政治的立場が、七、その著者の社会的地位が、
八、その著者の経済的状況が、九、その著者の文化的修養が、
十、その著者の精神的境界が、

此乃... (vertical text)

一 此乃... (vertical text)

一 此乃... (vertical text)

新... (vertical text)

一 此乃... (vertical text)

一 此乃... (vertical text)

一 此乃... (vertical text)

一 此乃... (vertical text)

一以是乃所... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

中... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

一... 樂善好施... 功在萬民

日多...

十日

...

...

...

...

...

一 此書者... 山... 後... 結... 部...
... 後... 部...
... 部...
... 部...

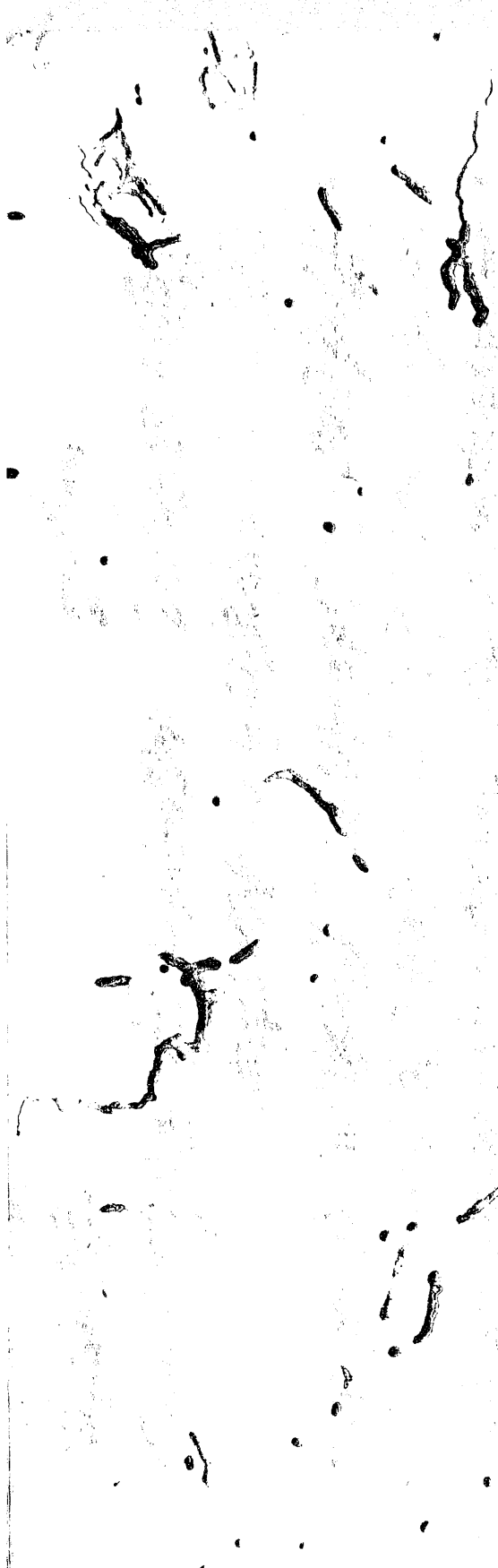
一 此書者... 山... 後... 結... 部...
... 後... 部...
... 部...
... 部...

一 此書者... 山... 後... 結... 部...
... 後... 部...
... 部...
... 部...

一 此書者... 山... 後... 結... 部...
... 後... 部...
... 部...
... 部...

一 此書者... 山... 後... 結... 部...
... 後... 部...
... 部...
... 部...

一 此書者... 山... 後... 結... 部...
... 後... 部...
... 部...
... 部...



以方

此書

御州... 存... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...

... 忠... 未... 凡...